

2-5 社会教育系施設

(1) 施設の概要、設置状況

社会教育系施設は、以下の設置条例に基づき5つの施設が設置され、全施設共通で実施している貸室業務の他、教養文化講座の開設、教育相談、資料展示などに関する事業を行っています。

また、栄楽館は平成5（1993）年度に寄付を受け、教育研究センターは旧友生小学校の施設を利用、たわらやは平成17（2005）年度に建替えを行うなど、取得の経緯に特徴があります。

<社会教育系施設の設置条例一覧>

- ・ハイトピア伊賀公共公益施設の設置及び管理に関する条例
- ・栄楽館の設置及び管理に関する条例
- ・伊賀上野交流研修センター条例
- ・伊賀市教育研究センター設置条例
- ・初瀬街道交流の館たわらや設置及び管理に関する条例

施設名称	地区	所管課	施設延床面積	駐車場	運営形態	設置根拠	備考
ハイトピア伊賀公共公益施設(5階)生涯学習センター	上野	生涯学習課	1384.85㎡	有	一部委託	ハイトピア伊賀公共公益施設の設置及び管理に関する条例	平成24年4月供用開始
栄楽館	上野	生涯学習課	480.47㎡	無	指定管理	栄楽館の設置及び管理に関する条例	公益財団法人 伊賀市文化都市協会に指定管理
交流研修センター	上野	生涯学習課	732.60㎡	有	指定管理	伊賀上野交流研修センター条例	公益財団法人 伊賀市文化都市協会に指定管理
教育研究センター	上野	学校教育課	2747.00㎡	有	直営	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条／伊賀市教育研究センター設置条例	体育館、グラウンドを併設
初瀬街道交流の館「たわらや」	青山	青山公民館	139.71㎡	有	直営	初瀬街道交流の館たわらや設置及び管理に関する条例	資料館を併設

表 2-2-13 社会教育系施設の一覧



交流研修センター



たわらや

(2) 施設の状況

社会教育系施設を構成している8棟の老朽化率は、平均42.7%となっており、栄楽館を除き、全て新耐震基準の建物となっています。

なお、生涯学習センター（ハイトピア伊賀）は平成23（2011）年度に建築された施設であり、全施設の中で最も品質が高いものとなっています。

施設名称	建物名称	延床面積	建築年度	老朽化率	残存年数	主体構造	耐震性	大規模改修	建物性能
ハイトピア伊賀公共公益施設(5階)生涯学習センター	生涯学習施設	1384.9㎡	平成23年度	0.0%	31年	鉄骨造	有	無	4.1点
栄楽館	生涯学習施設	480.5㎡	平成5年度	100.0%	0年	木造	無	無	1.0点
交流研修センター	研修所	732.6㎡	平成1年度	69.3%	9年	鉄骨造	有	無	2.6点
教育研究センター	校舎(増築分)2	213.0㎡	平成14年度	24.0%	25年	鉄骨造	有	無	3.1点
	校舎	1922.0㎡	昭和58年度	59.4%	19年	鉄筋コンクリート	有	有	
	校舎(増築分)1	80.0㎡	平成13年度	19.8%	37年	鉄筋コンクリート	有	無	
	体育館	532.0㎡	昭和59年度	78.0%	7年	鉄骨造	有	有	
初瀬街道交流の館「たわらや」	資料館・生涯学習施設	139.7㎡	平成17年度	21.0%	18年	木造	有	無	3.4点

表2-2-14 建物性能一覧表

建物性能評価点を施設単位で比較した図2-2-29のグラフからは、栄楽館の建物性能評価点が1.0点と、用途内平均2.9点よりも低くなっています。これは、平成5（1993）年度に寄付で取得した建物（建築年度は不明）であり、老朽化率が100%となっているためです。

一方、生涯学習センター（ハイトピア伊賀）は4.1点と本市が保有する全施設の中で最も高い点数となっています。これは、平成23（2011）年度に建築された施設であり、バリアフリーや節水・節電などの設備も備えているためです。

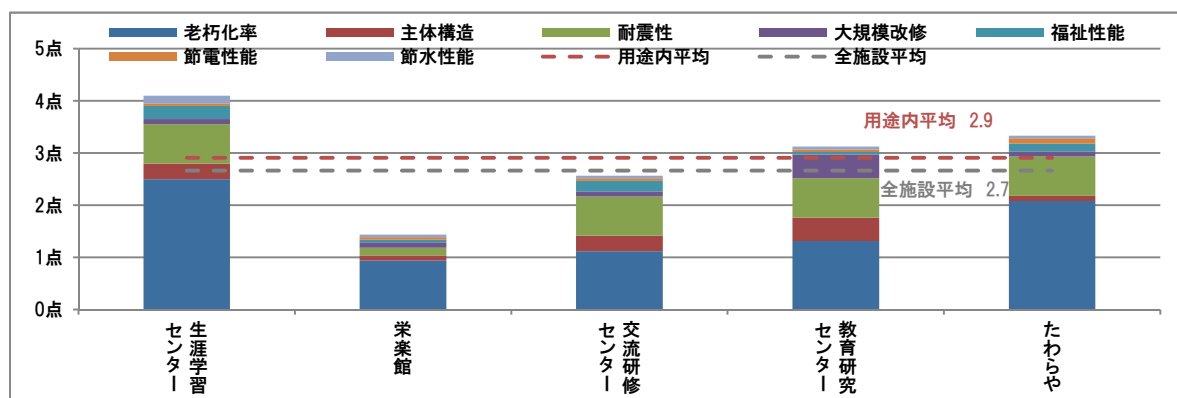


図2-2-29 建物性能評価点の比較（5点満点）

(3) 財務の状況

図2-2-30は、社会教育施設の保有コストの過去3年間の推移と面積当たり保有コストを比較したグラフです。社会教育系施設全体の保有コスト（30,959千円/年）のうち、委託料が占める割合が24%（23,666千円/年）と最も高くなっています^{※45}。また、面積当たり保有コストでは、規模の小さいたわらやが最も高くなっています（6.8千円/㎡）。

なお、生涯学習センター（ハイトピア伊賀）は平成24（2012）年度に供用開始された施設のため、また栄楽館は耐用年数を超過しており減価償却費がかかっていないため、保有コストがゼロとなっています。

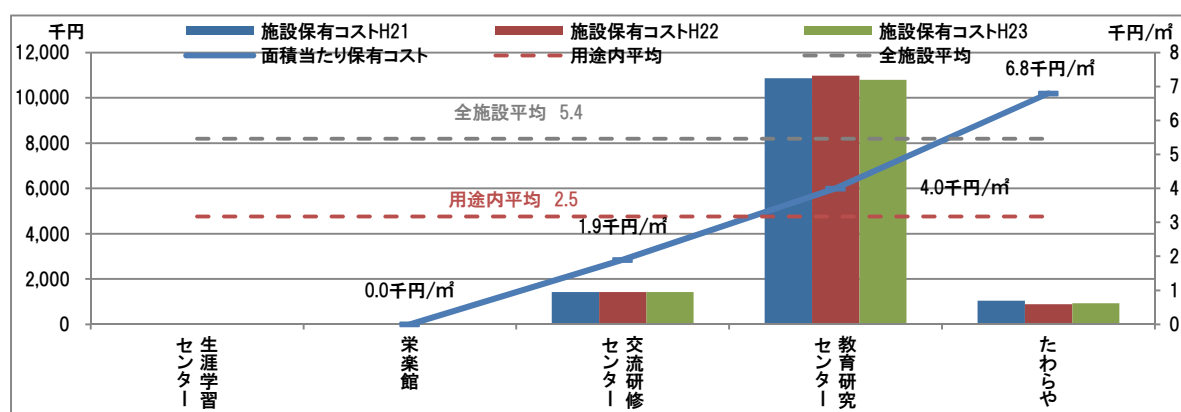


図2-2-30 施設保有コストの推移と面積当たり保有コストの比較

社会教育系施設の利用者一人当たりの総コストについては、教育研究センターが1,000円/人を超えており、最も高くなっています。一方で、指定管理者制度を導入している栄楽館や交流研修センター、青山支所に併設されているため管理人の人件費が不要なたわらやについては、1,000円/人以下となっています。

なお、生涯学習センター（ハイトピア伊賀）は平成24（2012）年度に供用開始された施設のため、総コストがゼロとなっています。

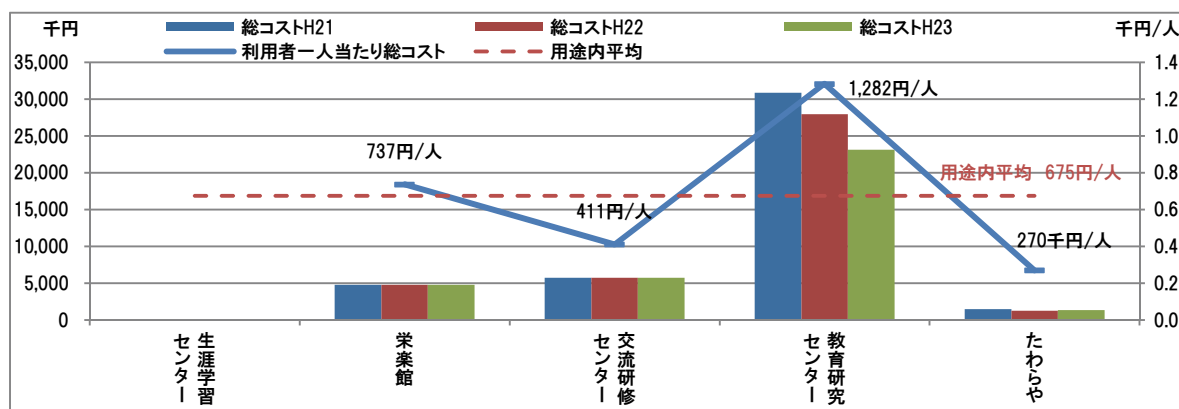


図2-2-31 総コストの推移と利用者一人当たり総コストの比較

※45 指定管理施設である栄楽館と交流研修センターの光熱水費などは指定管理料に含まれているため、施設保有コストには計上していません。

(4) 供給の状況

社会教育系施設の利用者数は、過去３年間で、8.4％から26.5％の増加となっており、全体として増加傾向となっています。一方、貸室の稼働率^{※46}については、5.2％から38.0％と施設間で大きなばらつきがあります。

施設名称	利用者数_H21	利用者数_H22	利用者数_H23	増減率	貸室部屋数	貸室コマ数	稼働率
ハイトピア伊賀公共公益施設 (5階)生涯学習センター	—	—	—	—	9 室	7,539 コマ	—
栄楽館	5131 人	6358 人	6490 人	26.5%	10 室	3,751 コマ	5.2%
交流研修センター	12851 人	13874 人	13934 人	8.4%	5 室	1,701 コマ	25.1%
教育研究センター	19540 人	22560 人	21285 人	8.9%	5 室	1,701 コマ	38.0%
初瀬街道交流の館「たわらや」	4000 人	4000 人	5000 人	25.0%	2 室	2,050 コマ	21.9%

表 2-2-15 社会教育系施設の利用状況

全施設が共通で提供している貸室の稼働率（提供可能なコマ数に対する利用コマ数の実績）を指標として比較を行いました。貸室稼働率は、栄楽館で5.2％と平均22.6％と比較して低くなっています。

一方で、交流研修センター、教育研究センター、たわらや については20％を超えています。なお、生涯学習センター（ハイトピア伊賀）については、平成24（2012）年度に供用開始された施設のため、利用者の情報などを記載していません。

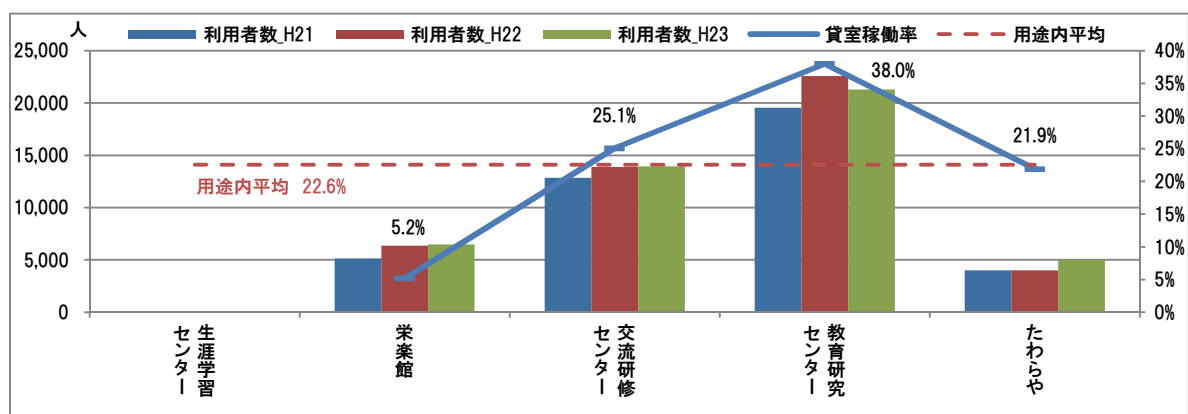


図 2-2-32 利用者数の推移と貸室稼働率の比較

※46 貸室数や定員などは、アンケート調査に加え、「平成24年度教育方針及び努力目標」（伊賀市教育委員会） <http://www.iga.ed.jp/iin/h24kyouikuhousin.pdf> の内容から作成しています。

(5) 施設配置状況及び需給の動向

社会教育系施設は、サービス供給エリアを生涯学習センター（ハイトピア伊賀）、栄楽館、教育研究センターは全市、交流研修センターは上野支所エリア、たわらやは青山支所エリアとし、需要者は全年齢層と設定しました。需要者一人当たりの供給状況を比較すると、0.90から1.16となっており、大きな余裕や不足のあるエリアは見受けられません。

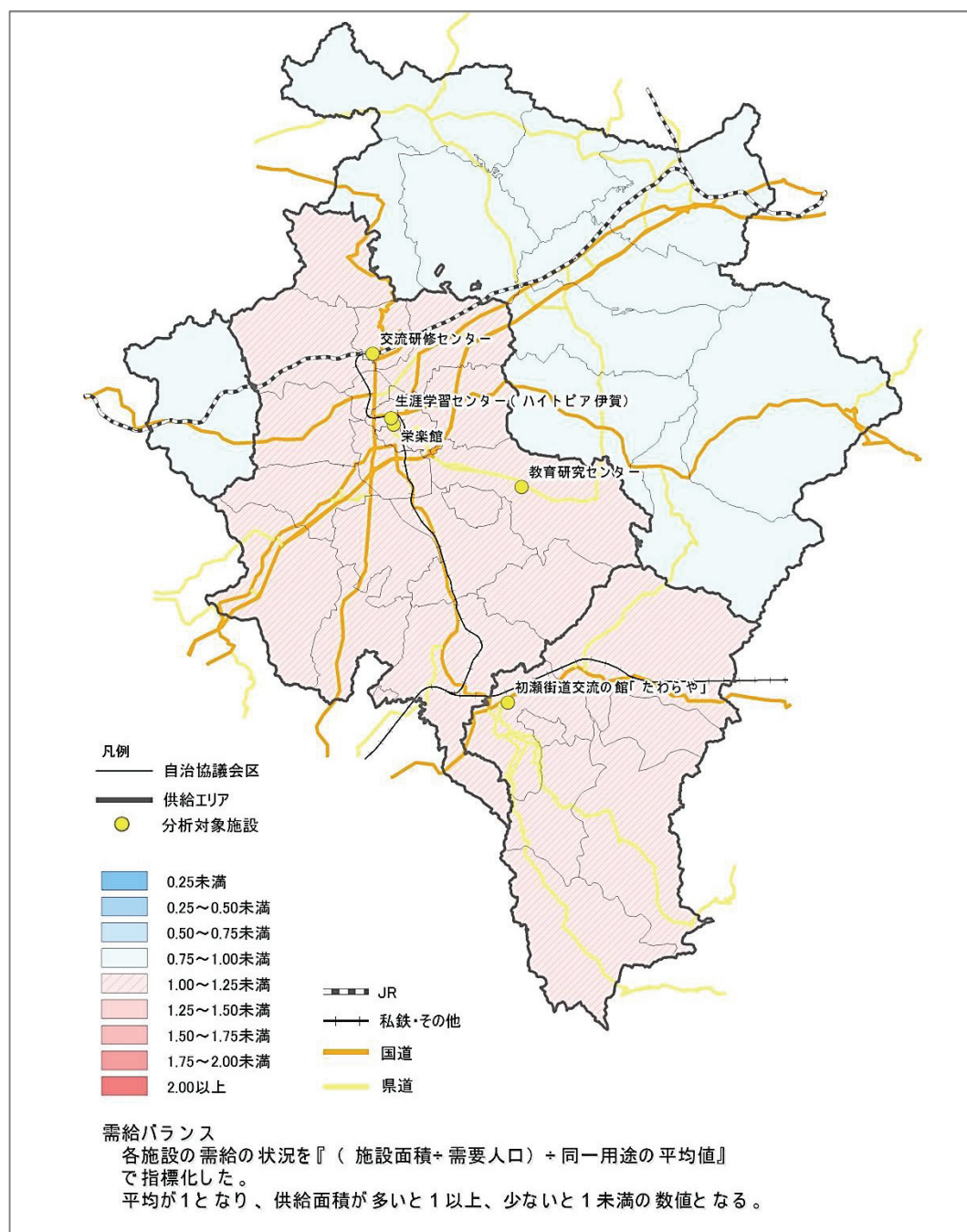


図2-2-33 需要人口（平成22年10月1日時点）一人当たりの施設供給量の比較

また、需要人口の将来推計からは、平成22（2010）年度の97,207人から平成47（2035）年度には70,358人と、27.6%の減少が見込まれます。このため、やや余裕傾向（1.38）となることが想定されます。

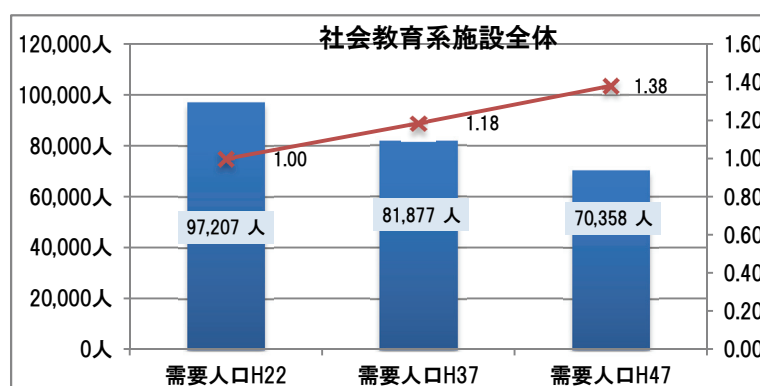


図2-2-34 社会教育系施設の需要人口と需給バランスの将来推計

(6) 現状と課題

<施設>

多くの建物が平成以降に建築されているため、老朽化率は42.7%となっています。しかし、耐用年数を超過している建物（栄楽館）や10年以内に耐用年数を迎える建物があるため、更新の是非や優先順位を検討する必要があります。

<財務>

利用者一人当たりの総コストについては、指定管理者制度を利用している栄楽館と交流研修センターが、直営で運営している施設よりも低くなっています。

<供給・需給>

施設の利用者数は増加傾向にあるものの、各施設で提供している貸室の稼働率は全施設とも50%未満となっており、今後は貸室を提供している他用途の施設との複合化などを検討していくことが考えられます。

